

「第5次豊見城市総合計画後期基本計画（素案）」に対する パブリックコメントへの豊見城市の考え方

募 集 期 間：令和7年12月18日（木）～令和8年1月16日（金）

閲覧方法・公表：豊見城市役所4階 企画調整課

豊見城市ホームページ

No.	ご意見	回答	関連施策
1	<p>地域共生社会の構築に向け厚生労働省の実施している「重層的支援体制整備事業」へ取り組むことを検討していただきたいです。 県内他市町村においても取り組み始めています。 多分野にわたる幅広く奥深い事業であり、困難も予想されますが、事業の交付金もあるようです。 ぜひよろしく願います。</p>	<p>貴重なご意見をありがとうございます。 「重層的支援体制整備事業」につきましては、地域共生社会の実現に向けた重要な取り組みであると認識しております。本市では、地域住民からの複雑化・複合化した支援ニーズに対応するため、包括的な支援体制の整備を目指し、素案の「地域福祉のまちづくり」に位置づけ、検討を進めております。</p> <p>この事業は福祉分野にとどまらず、子育て、教育、住宅、環境、防災など多岐にわたる分野での連携が必要であり、全庁的な取り組みとして進めていくことが求められます。具体的な方向性や各部門の役割分担、連携のあり方について慎重に検討を進めてまいります。</p> <p>今後も、いただいたご意見を参考にしながら、地域住民が安心して暮らせる支援体制の構築に向けて取り組んでまいります。</p>	2-2 地域福祉のまちづくり
2	<p>もっと子育てがしやすい環境が整った市にしてみたい。 具体的には、市内で働ける場所（企業）があってほしい。家庭・仕事・教育が本市内で全て行える環境が望ましいと考えます。 また、子供が安心して学べる環境や思い切り遊べる公園（夏場は暑いので屋内公園）があってほしい。75ページにあるような高架下空間の公園利用は切に希望します。 もう一つ、地域の公園は多くの人が利用する為、子供たちにボール遊びを禁止にしている所が多いと思いますし、十分な遊具が設置されている公園は限られています。子供たち（小学生）を屋外で思い切り遊ばせる為にも、小学校の校庭・遊具を開放することは出来ないか検討して頂きたいと思います。（防犯上難しいのかもしれませんが、夜間の体育館開放と似ているものと考えています）</p>	<p>貴重なご意見をありがとうございます。 市としても、若者や女性にも選ばれ、一人一人が幸せを実感でき、自己実現を図っていくことができる「選ばれるまち」を目指しております。</p> <p>市内で働ける場所の確保については、企業誘致や中小企業等への支援に取り組み、働ける場所の確保や働きやすい環境の整備に努めてまいります。</p> <p>子どもの遊び場・学びの環境については、国においては、令和5年4月にこども家庭庁が発足し、「こどもまんなか社会」の実現に向けた方向性が示されています。子どもたちがのびのびと安全に成長できる環境づくりの一環として、子どもの遊び場の確保だけでなく、子育て世帯の親同士や地域住民との交流機会の創出に資する公園整備が推進されています。この方針を踏まえ、国や県の補助の活用、民間活力による整備を検討し、屋内公園や高架下空間の活用など、多様な遊び場の整備に努めてまいります。</p> <p>小学校の校庭・遊具の開放については、文部科学省より、学校教育上支障のない限り、公立学校施設を目的外に使用することができる旨が示されました。しかし、屋外施設である校庭・遊具の開放は、屋内施設である夜間の体育館開放とは異なり、安全確保、管理運営、地域との連携など多岐にわたる検討が必要となります。いただいたご意見を参考に、効果的な学校施設の活用のあり方を検討してまいります。</p> <p>今後も、いただいたご意見を取り入れながら、より子育てしやすい環境の実現に向けて、各種施策に取り組んでまいります。</p>	1-1 子ども・若者の未来支援 3-4 企業立地の支援 4-7 公園・緑地の整備

No.	ご意見	回答	関連施策
3	<p><自治会加入率について> R12年の目標値がR6年の現状値と変わらず、25.8%なのは何故か知りたい。現状値、25.8%の年齢別内訳もどのようになっているか気になる。目標値の理由、考え方も「現状維持の水準を目指す」とのことで現状の加入率が低いにも関わらず、目標値が現状維持を目指す理由を詳しく知りたい。</p> <p><その理由> 自治会の共益費として、年間6000円の納入はしてきたが、自治会加入の案内はなかった。今年度、これまでの自治会の形ではなく新規の自治会加入も増やしていきたいという話が自治会長の方よりあり、自治会に入ってくださいという案内があった。近年の自然災害（地震や津波等）を見ていると、子どもたちを守るために、危機管理を高めていく必要があると思っている。地域と繋がることが、顔の見える関係性を高め、結果的に子どもを守ることに繋がると考えているため、自治会加入も検討した。しかしながら、月額金額を考えると躊躇してしまう実情がある。月の収入、支出を考えると自治会費として年間2万円を超える金額を支払うことはできない。このような考えで、自治会加入を躊躇ってしまう子育て世代は少なくない。自治会の運営も大変だと思うが、市の担当課でもっと自治会（地域）に目を向けて、組織としてやってほしいと思う。（例えば、予算をつけて、自治会費の家庭負担額を月額1000円にする等）顔が見える地域、横の繋がりを大事にできる地域が増えることが、市民の生活を守ることに繋がるのかな？と考える（子育てのしやすい町、災害に強い町、教育の面でもいじめの減少にもなり得そう）</p>	<p>貴重なご意見をありがとうございます。 自治会加入率につきましては、市内の全世帯数に対する自治会加入世帯数の割合により算出しております（自治会加入世帯数 ÷ 市の全世帯数 = 自治会加入率）。 近年、本市では単身世帯や核家族世帯の増加などにより市全体の世帯数が増加しており、自治会加入世帯数の増加を上回る状況が続いています。このため、計画においては、現状を踏まえ、加入率の目標値を現状水準の維持として設定しております。</p> <p>ご指摘のありました自治会費の負担につきましては、子育て世代をはじめ、加入を検討される方々にとって重要な課題であると認識しております。自治会費の金額や徴収方法は、各自治会が地域の実情や活動内容を踏まえ、自主的に決定しているものですが、市としましても、過度な負担が加入の妨げとならないよう配慮が必要であると考えております。</p> <p>現在、市では、自治会が自主的に行う、防犯灯の設置や修繕、電気料金を含む維持管理に係る経費、地域の清掃活動や集会所整備などに対する支援を行うとともに、自治会運営に関する相談対応や好事例の共有などに取り組んでおります。こうした取組を通じて、自治会費の負担に配慮しながら、より参加しやすい運営方法について検討が進むよう、引き続き支援してまいります。</p> <p>今後も、地域コミュニティの重要性を踏まえ、自治会活動の意義や役割が市民の皆さまに伝わるよう、情報発信や関係部署との連携に努めてまいります。</p>	5-1 コミュニティの振興